

## 思親閣

鎌倉時代には、僧職に専念して悟りを開くことは、過去の縁を切ることであり、親や家族との縁を切ることもありました。日蓮は帰依生活の中で、故郷の両親や恩師に会いたくなくなることがありました。身延山の山頂に登って、亡くなった両親や恩師のために祈りを捧げることもありました。

日蓮は、政府や仏教界に敵が多かったため、なかなか故郷に帰ることができませんでした。そのため、両親が亡くなっていくときにはそばにいたことができませんでした。これは日蓮の心残りの一つだったと言われています。日蓮は、両親を偲ぶために身延山の山頂に思親閣を建てさせました。

日蓮が親を想う身延山の山頂は「家族の絆の山頂」と呼ばれています。お堂の近くには、日蓮が自ら植えたと言われる4本の杉の大木があります。最初の2本は父と母のために、3本目は身延山の近くで一緒に暮らしていた医師のために、そして4本目は全国の人々のために、日蓮自身が植えたと言われています。

思親閣へは、久遠寺からケーブルカーに乗って身延山の山頂（標高1,153m）まで行くことができます。頂上までの所要時間は約7分。境内にはお土産屋さんがあり、新鮮なお団子が食べられます。近くの展望台からは、晴れた日には東側の富士山を望むことができます。また、3月から9月の早朝には、富士山の頂上から太陽が真上に昇り、まるでダイヤモンドのように輝く「ダイヤモンド富士」と呼ばれる現象が見られます。